



令和3年

新年のごあいさつ



コロナに負けない新しい時代への第一歩

松原市議会議長
池内 秀仁



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

平素は本市の市政運営並びに議会運営に対しまして、深いご理解と格別なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、現在の我が国は、人口減少・少子高齢化が進行し、「人生100年時代」といわれ、いつまでも健康で過ごせるよう健康寿命を延伸する取り組みが種々行われております。そのような中、昨年は、新型コロナウイルス感染症が、日本をはじめ短期間で全世界に拡大いたしました。新型コロナウイルス感染症の流行は市民の皆様を不安に陥れ、学校の休校や外出自粛など日常生活を一変させ、経済活動にも大きなダメージを与えました。

現在でも新型コロナウイルス感染症は、未だ終息に至っておりませんが、我々一人ひとりが、「新しい生活様式」における感染防止の3つの基本①身体的距離の確保②マスクの着用③手洗いなどをうまく取り入れながら日常生活を営み、乗り越えなければなりません。

松原市議会といたしましては、このような事を鑑み、本来議員に課せられた職責を改めて見つめ直し、真に必要な施策の優先順位をより激しく議論を交わすことによって導き出し、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息に向かって、議員一丸となり力を結集してまいります。さらに、これまで以上に、市民の皆様の多種多様な多くの意見を市政に適切に反映させることが出来ますように、議員一人ひとりが研鑽に努め、資質の向上を図ることはもとより、市民の皆様に寄り添ったより身近に感じる存在である市議会を目指してまいります。

結びに、市民の皆様におかれましては、本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

そして、この一年が市民の皆様にとりまして、幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げまして新年の挨拶といたします。

コロナに負けない!

誰もが住みたくなるまち・まつばら

松原市長
澤井 宏文



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、心健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、世界中の人々が新型コロナウイルス感染症の影響で、不自由な生活を強いられましたが、私が皆様にお伝えしたいのは、『正しく少し恐れる』ということです。

3密を避け、マスクの着用や手洗いなどの予防策を徹底することで、安全に日常生活を送ることができます。

本市におきましても、市独自の施策として、水道基本料金や小中学校給食費の無料などさまざまな支援策に取り組むほか、市独自のPCR検査センターを開設するなど、スピード感を持って対応にあたり、新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の両立を図りながら、魅力あるまちづくりに取り組んでおります。

昨年9月の豪雨では最大時間雨量約55mmと、昭和57年の水害を超える時間降水量を記録しながらも、大きな浸水被害を防ぐことができたのは、雨水対策を重点的に取り組んだ賜物です。また本市では、避難所の運営に向けた準備などを、町会や自主防災組織・松原防災士会・松原市セーフコミュニティ災害時の安全対策委員会などとの協働の取り組みにより実施しており、災害に強いまちづくりを進めています。

昨年1月にオープンした新図書館「読書の森」では、自習室で勉強に励む子どもたちの姿が多くみられますが、今年は市内の全小中学校が「インターナショナルセーフスクール (ISS)」の認証に向け、取り組んでおり、未来を担う子どもたちが自らの力でいじめや暴力をなくし、協働の担い手に成長してくれることを心より期待しています。

また、住みよいまちづくりの整備にも取り組み、昨年3月には阪神高速大和川線が開通いたしました。今年、河内松原駅前にホテルが開業し、さらに今秋頃には、松原天美ショッピングセンター（仮称）のオープンも予定されており、新たな雇用の創出が、まちの活力向上につながるものと期待しています。そして2025年には、大阪・関西万博が開催されます。この万博の開催を「松原市が成長する好機」と捉えて、「誰もが住みたくなるまち・まつばら」へ邁進していきます。

結びに、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年の挨拶といたします。